

世帯と人口

(10月1日現在)

世帯 44,578 (+133)
 人口 119,614人 (+225)
 男 61,069人 (+135)
 女 58,545人 (+90)

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

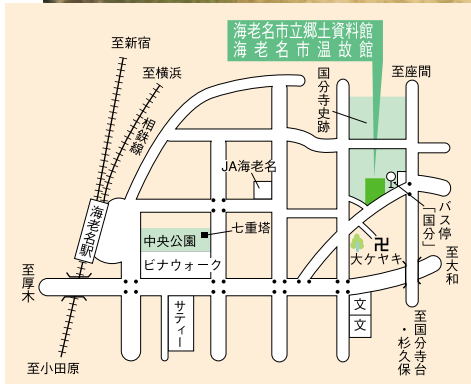
神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

温故館西側にある庭では子どもたちの遊ぶ姿も…



えびな模様…国分南から

歴史息づく親しみの館

11月7日から特別展開始

温故館では開館20周年を記念して海老名市のシンボルである相模国分寺をテーマに11月7日(木)から12月22日(日)まで特別展「相模国分寺創建」を開催します。

今回は、相模国分寺跡・国分尼寺跡から出土したかわらや土器などを展示し、発掘調査などにより明らかになりつつある相模国分寺、尼寺の姿を中心に紹介します。

★展示解説 11/16(土)・30(土)・12/8(日)、各日午前10時～、午後2時～

☎ 温故館 ☎233・4028 期間中は月曜休館。

国分南アラカルト

◎人口(10月1日現在) 5,901人

◎世帯 2,315世帯

◎面積 0.88平方*_{0.01}km²(市全面積 26.48平方*_{0.01}km²)

◎地名の由来 「国分」は、天平13(741)年の聖武天皇の詔によってつくられた相模国分寺に由来。

また、建物西側には芝生と自然石を利用した庭があり、訪れた人に安らぎを与えてくれます。

「プライムタワーやピナウォークがある海老名にこんな静かな場所があるのはうれしい。今日も買物物の帰りに立ち寄りました。」

わがまちの発展を見続けてきた温故館。ここを訪れると、海老名の未来につながるヒントが見つかるかもしれません。

展示物には復元された相模国分寺の模型や市内で出土した石器・土器・かわらなど歴史資料のほか、スキ、クワなどの農具や古民具等の民俗資料を展示しており、ふるさとの歴史を感じることが出来ます。大正7年建築の建物は平成2年に「かながわの建築物100選」に選ばれるなど、文化的価値が高く評価されています。

「温故知新」。論語の言葉で、昔の事を調べ、そこから新しい知識や見解を得ること。この教えを名前に持つ温故館は、相模国分寺跡が国指定史跡となった大正10年、国分寺跡保存整備事業の一つとして、現在の海老名小学校の校庭につくられました。関東大震災の被害を受け崩壊。その後3度の移転を経て、昭和57年に旧村役場庁舎を利用した現在の場所が開館となりました。

ピナウォークの東に位置する国分南。大山街道が大きくカーブする一角は、発展を続ける海老名駅周辺地域に隣接する立地でありながら、歴史が今も息づく場所です。

太古、この地がまだ相模湾の入江だったころ、船をつないでいたケヤキが根付いたという伝承が残る「大ケヤキ」。かつて相模国分寺が置かれ、高さ65mもの七重の塔が建立されるなど栄華を誇った「相模国分寺跡」。この史跡東隅に建つ旧海老名村役場。現在は歴史資料の中心的施設として親しまれている「海老名市温故館」です。